

堂本印象と大阪、『いの字絵本 恋の都大阪の巻』の顕彰

堂本印象と大阪研究会

■活動内容

- ①堂本印象の大阪時代の事績の調査。
- ②堂本印象作『いの字絵本 恋の都大阪の巻』の復刻版の刊行。
- ③シンポジウム「堂本印象『いの字絵本 恋の都大阪の巻』とは何か ―青年画家の心をとらえた大阪のまちと女性―」の開催。

■コンセプト・ねらい

日本画家・堂本印象（1891-1975）は、明治末から大正初期の約8年間、主に大阪を拠点に活動をしていた。この大阪時代の印象の事績については不明な点が多く、本活動において資料の探索と調査を行った。

堂本印象が、大阪時代に手掛けたコマ絵画集『いの字絵本 恋の都大阪の巻』（1912）は、「堂本印象」の名で画家デビューを飾った重要な作例であるとともに、明治末～大正初期の大阪の都市文化を当世風俗として表現しており、大阪文化史の観点からも貴重な作例と言える。また、本書は竹久夢二の『夢二画集』に代表される同時期に出版された他のコマ絵画集とは異なる和装本のこだわった仕様である。本活動では、原本の雰囲気を活かした復刻を行った。復刻に併せて、有識者を招聘してシンポジウムを開催し、若き日の印象の画家としての原点を新しい視点で掘り下げるとともに、多くの市民に大阪と印象の関係について理解してもらう契機とした。

■活動実績

- ①堂本印象の大阪時代の事績の調査。

2025年11月 『いの字絵本』に描かれている場所（江戸堀～新町界限、天王寺界限）の調査

- ②堂本印象作『いの字絵本 恋の都大阪の巻』の復刻版の刊行。

2025年10～12月 『いの字絵本 恋の都大阪の巻』の復刻本（非売品）の製作
印刷業者と詳細に打合せし、複数の原本と比べながら、本機色校正を2回行った。

使用する紙や綴じる糸色なども吟味した。

2025年12月 『いの字絵本 恋の都大阪の巻』復刻本の完成

2026年2月～ 『いの字絵本 恋の都大阪の巻』復刻本を大阪市立中央図書館、大阪府立中之島図書館などの公共施設・関係先に献本。

- ③シンポジウム「堂本印象『いの字絵本 恋の都大阪の巻』とは何か ―青年画家の心をとらえた大阪のまちと女性―」の開催。





2025 年 5 月シンポジウム会場下見



2025 年 7 月・11 月 シンポジウムの打合せ
場所：大阪市立住まい情報センター会議室



青年画家が描いた大阪の恋模様

青春期の大坂の姿が、
こうした卓抜した画筆で
後世の我々に残されたのは、
ほんとうに幸運だった。

※ 申込方法の詳細は其後詳述
※ 2025 年 12 月 12 日 10:00 ~ 受付開始 (9:00)

シンポジウム

堂本印象

『いの字絵本 恋の都大阪の巻』とは何か

青年画家の心をとらえた
大阪のまちと女性

2026 年 2 月 1 日 ⑧
13:30 - 15:30 (開場 13:00)

会場 | 住まい情報センタービル 9 階ホール
定員 | 150 名 [送料/費申込] 参加費について 後詳述

登壇者

横山 節也 (大阪大学名誉教授)
高井 多佳子 (倉庫屋安太郎蔵書員)
杉本 喜代 (杉本喜江蔵書員/蔵書家/文芸評論家)
正木 利和 (美術ジャーナリスト) [大阪府文化振興会委員]
近尾 敦子 (京都市立中央図書館館長/京都市文化委員)
進行 | 林 隆子 (京都府立中央図書館文化館)

いの字絵本とは

戦後文壇の一大巨匠として活躍した堂本武弘氏の没後 50 年を記念し、その代表作『いの字絵本』を基に、大阪のまちと女性をテーマにした絵本『いの字絵本 恋の都大阪の巻』が制作されました。本シンポジウムでは、この絵本の制作経緯や、堂本氏の創作活動について、関係者から話を伺います。

2025 年 11 月シンポジウムチラシの作成



2025 年 12 月シンポジウム広報の一環として「堂本印象
『いの字絵本 恋の都大阪の巻』の寄稿 (情報誌『あんじゅ』
105 号(大阪市立住まい情報センター発行))

2026 年 2 月 1 日

復刻記念シンポジウム「堂本印象『いの字絵本 恋の都大阪の巻』とは何か ―青年画家の心をとらえた大阪のまちと女性―」

登壇者：橋爪節也（大阪大学名誉教授）

高井多佳子（高島屋史料館研究員、堂本印象と大阪研究会）

杉本喜代一（杉本梁江堂、堂本印象と大阪研究会）

正木利和（美術ジャーナリスト）

松尾敦子（京都府立堂本印象美術館主任学芸員、堂本印象と大阪研究会）

進 行：林屋祐子（京都新聞社）

会 場：住まい情報センタービル 3 階ホール

時 間：13：30-15：30

定 員：150 名

（※『いの字絵本』復刻本は同ビル内の大阪くらしの今昔館ロビーにおいて関連展示をしていただいた）

■成果・効果

- ・『いの字絵本 恋の都大阪の巻』（以下『いの字絵本』）に関係する資料収集や取材地の調査を行ったことで、制作環境への理解につながった。
- ・画家デビューを飾った作例として、堂本印象の画業において重要な意味を持つ『いの字絵本』原本と、同じ和綴じの仕様にした復刻本を製作し、堂本印象の事績を残すことができた。
- ・復刻本は、大阪府立中之島図書館、大阪市立中央図書館などの大阪府内の主要図書館の他、国会図書館等へ献本した。
- ・復刻記念のシンポジウムを開催し、『いの字絵本』について、専門家 5 名によって、大阪の文化史、出版史、ジャーナリズムなどの観点から討議を行った。150 名超の来場者があり、市民の関心を高めることが出来た。

■今後の展開

大正 8 年以降、日本画家になってからの堂本印象は、戦時中に手がけた四天王寺五重宝塔の仏画をはじめ、戦後は輸出繊維会館、大阪玉造教会など、大阪を代表する公共建造物の壁画、フェスティバルホールや万国博ホールの緞帳の原画などを手がけている。今後は、それらの顕彰を行う。

堂本印象美術館が所蔵する資料中に確認された、大阪に関わる資料を、今後の展覧会の中で活用し、印象の画業をより多角的に紹介する。



『いの字絵本 恋の都大阪の巻』復刻ための印刷業者との校正作業（原本と比べながら、紙質、色、綴じるための糸などにもこだわった）



『いの字絵本』復刻本の完成 左が原本。右が復刻本。



2月1日シンポジウム当日



前半：登壇者5名による発表（松尾敦子）



橘爪節也先生



杉本喜代一氏



高井多佳子氏



正木氏



後半：パネルディスカッション（司会 林屋氏）



閉会后 集合写真



シンポジウム会場と同じ建物内の大阪くらしの今昔館のロビーにて関連展示をしていただく。（復刻本は左端）